

表 スカビオサ「フリフリメイ」の日持ち期間と花色に及ぼす収穫時期と輸送中糖処理の影響

収穫時期	輸送シミュレーション中の糖処理	日持ち期間(日)	花色 <sup>z</sup>	
			明度	彩度
① 慣行	なし	20.8	34.3	24.9
② 早期	あり	24.5	44.7	21.9
③ 早期	なし	24.3	61.5	9.7

z 日持ち調査開始から7～9日後に最も外側の花卉を測定した。色差計により測定。明度の数値が大きいほど薄い色を示し、彩度の数値が大きいほど鮮やかな色を表す。



図 日持ち調査開始から7日目の切り花の状態

早期収穫

糖処理が効果

スカビオサの日持ちと発色

現場で使える！研究成果

長崎県で生産されているスカビオサは、全国に出荷され、海外にも多く輸出されている。海外輸出では輸送期間が長く、特に気温が高い時期は開花が進みやすいため、蕾が固く花がまったく開いていない状態で早期収穫している。しかし、早期収穫することで着荷時の発色不良などが発生し、問題となっている。そこで、県の主力品種であるスカビオサ「フリフリメイ」を用いて、①蕾が開き始めたころ収穫する慣行、糖処理なし②早期収穫、糖処理あり③早期収穫、糖処理なしの

三つの区を設け、輸出を想定した輸送シミュレーション（暗黒条件、10度、6日間）を行った。その後、気温25度、相対湿度50%程度、照度900ルクス、12時間日長に設定した室内で蒸留水に生けた切り花の日持ち期間と花色を調査した。その結果、早期収穫すると日持ち期間が延長し、さらに輸送中に糖を吸収させると花卉の発色が促進され、早期収穫した場合でも慣行と同等の花色になった。（表、図参照）

1%と抗菌剤を含む品質保持剤を使用した。本技術を活用する際は、市販のグルコースを含む資材を使用するとよい。  
（長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 木戸真史）

本試験での糖処理にはグルコース（ブドウ糖）